

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No. 229

2022年

3月号

(毎月25日発行)

仁和寺周辺

お花見を計画する時期になりました。今年の行先は仁和寺周辺、案内書を2ページに掲載しています。前回、街 ing で仁和寺を訪ねたのは2010年4月11日(日)、もう12年前になります。この時は、「御室桜(おむろざくら)」を鑑賞しました。「御室桜」は高さが2メートルと低い桜。根本から生えている桜を目の前で楽しむことができました。仁和寺と名付けられたのは、創建された当時の年号が「仁和」だったから。宇田天皇が建立し、退位後にその御所としたことから仁和寺は御室御所(おむろごしよ)とも呼ばれています。「室」は地位の高い人の住む場所のことです。

今回は、仁和寺の南約1キロにあるJR嵯峨野線「花園駅」で下車し仁和寺山門までを目指します。仁和寺境内には入りません。出発点の「花園駅」はこの地が平安時代から「花園」と呼ばれていたことに由来しています。花園と言われていたのは、この地にある「法金剛院」が四季折々の美しい草木を植えていたからです。千年以上の歴史を持つ名称になります。今回この「法金剛院」も拝観する予定にしています。コロナの影響で閉鎖されていないことを祈ります。もう一つの見所は、双ヶ丘(ならびがおか)。徒然草の作者、吉田兼好が晩年を過ごした地です。標高116メートルの双ヶ丘からはどんな景色が広がっているのでしょうか。

昼食は、仁和寺の門前にある料亭「佐近(さこん)」。雄大な山門と景観を楽しみながらの食事です。京懐石とフランスをコラボさせた和洋折衷料理で、はんなりとした料理を味わうことができます。「はんなり」は「花なり」「華なり」を語源とする代表的な京言葉の一つ。上品ではなやかな感じを表しています。料金は5,000円と高めですが、ここでしか味わえない京料理を楽しみましょう。テーブル席を予約しています。

解散は15時ごろ、「佐近」での現地解散となります。京福電鉄「御室仁和寺」までは徒歩5分程度。京福の社名は、鉄道事業を行っていた京都と福井それぞれの頭文字をとったものですが、京都と福井を結ぶ鉄道計画があったわけではありません。京都は祇園を始め夜間の電力需要が多く、福井は逆に織物工場が稼働する昼間の電力需要が多いため、互いの電力を融通するために前身の京都電燈が建設した「京福送電線」が語源となっています。

お花見まで、2か月足らず。コロナの完全終息は期待できないでしょうが、ますますの天候と開花は期待したいですね。

“兼好法師”^{ゆかり}所縁の＜双ヶ丘＞^{をらび}界限徒然^{つれづれ}漫步
2022年4月5日(火)

契りおく 花とならびの 丘のへに 哀れ幾世の 春をすぐさむ

吉田兼好

生前、双ヶ丘の辺りに墓を作り、「死後も共に過ごそう」と傍らに桜を植えた、と。果たして自分はあと何年、この桜を観られることか！？



古都の叢の波に浮かぶ双ヶ丘

法金剛院・待賢門院桜 双ヶ丘山頂から望む仁和寺の佇まい

御室仁和寺の南大門から真っ直ぐ南に下る。直ぐに京福電鉄「御室」駅に突き当たる。その「御室」駅を左に踏切を渡ると、目の前に^な嬌やかな緑の丘が現れる。双ヶ丘の名の由来は、三つの丘が北から南へと一直線に連なっていることにある。今では叢の波が麓まで押し寄せていて、双ヶ丘は恰も瀬戸内の海に浮かぶ小島の佇まいを古都に漂わせている。

三つの丘の内最も高いのが一ノ丘(海拔116m)。その山頂には、平安時代初期、桓武から仁明まで五代の天皇に仕え、従二位右大臣となった清原夏野の墓がある。

双ヶ丘は眺望がよく、都の雑踏から離れた閑静の地なので、自然を慈しみ詩歌を詠む人々の別荘地、隠棲地ともなっていた。清原夏野が山荘(法金剛院の前身)を構え、兼好法師が庵を結んで思索に耽ったのも、そうした双ヶ丘の恵まれた環境と深く結びついている。

若い頃から禁裏に出仕していた吉田兼好は、30代で出家し、洛北・修学院や比叡山・横川に隠棲したが、後に洛西・双ヶ丘に庵を結んで閑居したと伝えられる。兼好法師の隠棲地は二ノ丘西麓で、此処で精力的な文筆活動に没頭するのである。「つれづれなるままに、日暮し、硯に向かいて……」で始まるあの『徒然草』は、法師48～9歳の頃の作と伝えられている。

水先案内人：牧 彰(会員)

.....

○参集地：JR「茨木」駅改札口 8時30分

○順 路：「茨木」⇒「花園」～法金剛院(※妙心寺退蔵院)～花園西陵～長泉寺～つれづれの道(こもれびのひろば・はなみのひろば)～双ヶ丘(とおみのひろば・一号墳)～こもれびのひろば～昼食(御室「佐近」13:30～)「御室仁和寺」駅⇒「四条大宮」⇒阪急「茨木市」

※コロナ禍で法金剛院拝観不可の場合は、妙心寺退蔵院とする。

○拝観料：法金剛院(待賢門院桜) 600円

※妙心寺退蔵院(紅八重枝垂れ桜・瓢鮎図) 600円

○昼の宴：京都・御室「佐近」京都市右京区御室小松野町 25 - 37 ☎075-463-5582

京懐石とフランス料理をコラボした和洋折衷料理(さくらコース 5,000円)

○参加費：無料(会員外は資料代100円)

※会員には、会より1,000円の補助あり。

○定 員：約25名

○申込先：「街ing いばらき」代表・阪田浩(080-1436-9881)

会員外の参加大歓迎

Tel & Fax / 072 - 627 - 3480

[E-mail /](mailto:ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp)

ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

日本史重要年代

阪田浩

節目の年代を覚えておくと、歴史番組や街歩きでの解説をより深く理解できます。節目の年をゴロ合わせで記憶してはいかがでしょうか。

607年 遣隋使の派遣 カモメ群れな 607 す遣隋使

小野妹子を隋に派遣。妹子は隋の政治制度・文化を学んで帰国しました。以後約 300 年にわたり、日本は中国の文化を取り入れることとなります。

710年 平城京への遷都 なんと 710 みごとな都かな

元明天皇のときに、遷都しました。平城京は唐の長安にならい碁盤の目状に区画されました。歴史的な価値はあるのですが、奈良は茨木から時間のかかることもあり、街歩きに行く機会が少ないです。

794年 平安京への遷都 鳴くよ 794 鶯うぐいす 平安京

桓武天皇は平城京から、長岡京および平安京への遷都を行いました。平安京は、明治維新にいたるまで約 1,000 年間の都となりました。鎌倉幕府が開かれるまでの約 400 年間は平安時代です。

894年 遣唐使の廃止 白紙 894 に戻せ、遣唐使

唐の衰退や航海上の危険を理由に、菅原道真が宇多天皇に提案し停止されました。宇多天皇は仁和寺に入って法皇となりました。宇多天皇が仁和寺を建立したのは、仁和 4 年のことです。遣唐使の停止により、かな文字の使用など国風文化が発達することになります。

1192年 鎌倉幕府が確立 いい国 1192 つくると大將軍

源頼朝が武士の統率者の地位を示す征夷大將軍に任じられ、鎌倉幕府が確立しました。7 年前にあたる 1185 年に、源頼朝が守護・地頭を設置していますので、1185 年に鎌倉幕府が確立しているという説もあります。この場合は、頼朝にいい箱 1185 渡す守護・地頭 と記憶しましょう。

1467年 応仁の乱が始まる 戦国の 人よむな 1467 しい 応仁の乱

原因は室町將軍の後継問題など。戦闘は京都を主戦場に 11 年間も続きました。応仁の乱は京都を焼け野原にして、約 1 世紀におよぶ戦国時代のさきがけとなりました。

〈次回に続く〉

“人生の紅(黄)景期”に臨んで！ —“シニア世代の女性”の生き方—

匿名(「街ing いばらき」会員)

“シニア世代の女性”の皆さま！人生“実りの白秋期”を、唯々只管目的もなく無聊に過ごしておられませんか？誰もが通る老い。そして、終活と一口にいられていますが、「人生の終焉」を、何処で、誰と、如何に迎えるか？」は、とても、とても大切なことです。時には一人で生き抜く“勇気”と“覚悟”も必要なのでしょうね！

「老いに、如何に真摯に向かい合うか？」に、その人の“人生観”が如実に反映されているのです。

◇「元始、女性は“太陽”であった！」

ところで、皆さまは「私たち女性が、この地上で唯一の特別な存在である」ことをご存じでしょうか？動物・植物を問わず、この地上の生き物にとっての「生きる名分」は偏に“種の保存”にある」といえます。全ての生物にとって、「生殖能力が無くなれば、“生きる名分”を失う」こととなります。それにも拘らず、人類の雌（女性）だけが、閉経後も凡そ人生の約半分の数十年間生き続けるということこそ、生物学的に奇蹟そのものなのです。「女性って、なんと摩訶不思議で、なんとも素晴らしい存在なのでしょう！

やはり、「元始、女性は“太陽”であった！」のでしょうか？

※「元始、女性は太陽であった！」は、女性解放運動の先駆者・平塚らいてう（1886～1971）が雑誌『青鞥』創刊号に寄せた辞。

「元始、女性は太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他によって生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である。（後略）」

◇『葉っぱのフレディ(葉の生涯)』から学ぶ！

絵本『葉っぱのフレディ』には「木の葉の芽生えから落葉まで」を擬人化し、“生命の仕組み”や“人生の意義”などが、子供にも分かり易いように描かれています。

植物の紅(黄)葉には、「翌春の発芽力を蓄えるために自ら落葉する」という深遠な意義が秘められています。紅(黄)葉は風で強引に散される“偶発的な細胞死”ではなく、“遺伝子段階でインプットされた細胞死”のため、生理学的に極めて重要な意義があります。

紅(黄)葉が古よりこの国の詩歌にも謳われて先人たちに愛でられてきたのは、着実に“種”を次世代へ継承するための“自己犠牲”という大なる“自然の摂理”に、「人は自ずと感銘させられる」からなのでしょう。

より豊かな“悔いなき人生”のためにも、『葉っぱのフレディ』を大いに見習い、“自然の摂理”に叶った尊厳ある“人生の終焉”を受け入れてこそ、人は真に“生きる喜び”を享受できるのではないのでしょうか？

◇私たちの人生にも＜四季＞がある！

わが国に“季節の移ろい”があるように、「人生にも四季がある」と思うのです。日差しが透けて見える新緑の美しさは格別ですが、それらにも増して「紅(黄)葉は一人美しい！」

押し並べて画一的な新緑とは異なり、風雨に晒されて千切れ、鳥獣や虫に蝕まれ、また、木漏れ陽などにより斑模様(ままだら)に彩られ、紅(黄)葉には一枚一葉として同じものはありません。そこには、「発芽から落葉まで」の“葉の一生”が鮮明に綴られているのです。

近年の異常気象は日本の誇る“錦秋”にも少なからず影響を及ぼし、昨今の紅(黄)葉は些か精彩さに欠けているかに見受けられます。時には、中秋に春の花(桜など)の開花を見るのには驚かされます。

地球の環境は、日本の四季は、一体どうしたことでしょうか？「四季の移ろいにこそ、日本文化の源泉がある」と思うのですが、これも“地球温暖化の顕著な兆し”なのではないでしょうか、きっと！

思えば、私たちは“人生の紅（黄）葉期”真只中にいます。人生“花の青春期”に返り咲けないとしても、せめて「美しく紅葉し、少しでも遅い落葉を期待したい！」ものです。

◇人生の＜時間認識＞は、年齢で異なる！

“人の寿命”はその人がこの世に存在する“物理的時間の長さ”と考えられがちですが、果してそんな皮相的解釈でよいのでしょうか？特に、「“人生”には、もっと“深遠な意義”がある」のではないのでしょうか？

人は社会経験の少ない若い時期ほど、日々の出来事は新鮮で逐一興味の対象になり、毎日が充実しています。何かに熱中している時は束の間にも思えるかもしれませんが、後からは長い時間経過に感じられるのです。

定年退職し子供が巣立った後の老夫婦などには充実した日常生活の継続は難しく、どこか空虚になりがちです。為すことなく漫然と過ごす時間は一見長く思われますが、後から顧みると早く過ぎ去るように感じられます。

このことなどから、“時の刻み”は単なる“物理的時間の長さ”だけではなく、“各人の年齢や生き方”によることが分かります。この“時の刻み”を“寿命”に置き換えると、「人の“寿命”は、実際に生き永らえている“物理的時間”ではなく、充実した人生に不可欠な“心理的時間”の長さである」と思えるのです。

◇＜人生の“第2ステージ”＞を如何に演じるか？

誰にでも等しく与えられている“時間”は、顧みると年少者にはより長く、年長者にはより短く感じられ、また、過去の思い出や記憶の濃淡などに大きく影響されることが分かります。

キー・ワードは、＜クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）＞！

各人の“悔いなき人生”のためには、“物理的時間”の＜長さ＞でなく＜質＞に拘ることこそ大切です。そして、気持ちの上では幼少期に立ち返って、“未知との出会い”を厭わず何事にも興味を示し、些細なことにも熱中・感動する日常でありたいものです。

時には、“ときめき”も必要なのではないでしょうか！“ときめき”は、決して若者だけの特権ではありません。

この季節には同年配の訃報に接することも間々あり、“人の命の儂さ・人生の虚しさ”が一人身に沁みま

す。人は「死ぬために生きている」のではなく、「生きているから死ぬ」のです。より豊かな“意義ある人生”のために、“自然の摂理”に叶った“尊厳ある人生の終焉”を素直に受け入れてこそ、真に「生きる喜び」を享受できる」のではないのでしょうか！

一分一秒、決して後戻りできない“人生”という時間を、私たちは一体何を抛り所に刻んで行ったらよいでしょうか？

「生命に限りある」からこそ、「人生に意義がある」のです。“人生の終焉”を間近に感じている私たちには、

平生の安寧な日々を心から慈しみ、精一杯有意義に過ごすことこそ大切です。

例え人間社会は醜くても、「人生は美しく！」ありたいものです。

たった“一回ぼっきりの人生”です。今、“人生の紅（黄）葉期”に臨んで、皆さまにとって真に“意義ある人生”が切に望まれます。

ご静聴、本当に有難うございました！



安威川ダムがいよいよ3月に完成！

杉田 宗三

昭和42年の集中豪雨を契機として、洪水調節、流水の正常な機能維持のための治水ダムとして大阪府が2014年にダム本体工事に着手し建設を進めてきましたが、いよいよ本年3月に完成予定となり、4月から試験湛水が始まります。

「試験湛水」は、ダムの完成後、実際に運用する前に行う試験で、満水位まで貯水し、放水しながら漏水量、ダム本体の強度、周辺の山崩れなどの安全性を確認するものです。普通、1年ほどかかるようです。

茨木市では、大阪府と連携を図りながら、引き続きダム関連事業の整備や、ダム湖を含めた周辺整備を進め2024年3月オープンを目指しています。

この安威川ダムは全国でもまれな都市型ダムで、周辺の豊かな自然環境と合わせ、ダム建設によって生まれる湖を生かした観光レクリエーションの拠点として、市民のみなさんに親しまれるダムの実現を目指しています。



2022-2-2 撮影



完成イメージ図



「日本人の奴隷化」を食い止めた豊臣秀吉

杉田宗三

～東洋経済 ONLINE 2021-6-8 配信より抜粋～

当初は織田信長の政策を継承し、日本でキリスト教布教を容認していた豊臣秀吉。



だが、後に「バテレン追放令」によって布教を禁ずるようになる。秀吉がキリスト教の布教を防ごうとした背景には、ポルトガル人による「奴隷貿易」があった。5万人の日本人が国外に連行されたという、その実態とは？作家の新晴正氏による『謎と疑問にズバリ答える！ 日本史の新視点』（2021/1/9）より一部抜粋・再

構成してお届けする。

キリシタンの保護政策に対し、見直すきっかけを与えたのが、天正14年(1586年)7月に秀吉自身が始めた「九州平定（九州統一を目論んだ薩摩の島津との争い）」だと言われている。

秀吉がなぜこの追放令を出したかだが、その理由の一つに、西欧人たちが胸に秘めた日本侵略の意図を読み取ったからだ。ポルトガル人宣教師コエリョが秀吉を博多で出迎えた際、自分が建造させた最新鋭の軍艦に秀吉を乗船させて、自分ならいつでも世界に冠たるスペイン艦隊を動かせると自慢半分、恫喝半分に語ったという。このとき秀吉は彼らの植民地化計画を瞬時に看破したのであった。もう一つ許せないのが、日本の大事な国土が西欧人たちによって蚕食され始めていることだった。たとえば、キリシタン大名の大村純忠は自分の領地だった長崎と茂木を、同じくキリシタン大名の有馬晴信は浦上の地をすでにイエズス会に寄進していたのだ。日本国の支配者たる秀吉にとって、いかに信仰のためとはいえ、外国人に日本の領土の一部を勝手に譲渡するなど言語道断の出来事だった。

さらに秀吉がこの伴天連追放令を出した最大の理由といわれているのが、日本人の奴隷問題だった。日本人の貧しい少年少女が大勢、タダ同然の安さで西欧人に奴隷として売られていることをこのたびの九州遠征で初めて知ったのだ。こうした日本人奴隷の交易にキリシタン大名たちが直接的にしる間接的にしる何らかの形でかかわっていたことは間違いないだろう。秀吉は激怒し宣教師コエリョに日本人奴隷の売買を即刻停止するよう命じた。そして、「すでに売られてしまった日本人を連れ戻すこと。それが無理なら助けられる者たちだけでも買い戻す」と伝えた。その一方で、日本国内に向けてもただちに奴隷として人を売買することを禁じる法令を発している。

こうした秀吉の強硬な態度がポルトガルに対し示されたことで、日本人奴隷の交易はやがて終息に向かうのであった。こうして見てくると、当時の秀吉は日本の為政者として領土や国民の安全を守るために最善の選択をしたように思えてくるのだが……。 新晴正

次回『街ing いばらき』例会のご案内

日 時： 2022 年 3 月 3 日(木) 15:00～17:00

場 所： 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

住所：茨木市上泉町6-29 TEL:072-624-5552

- 内 容： 1. 4月5日(火)のお花見 仁和寺周辺
2. 5月以降のまち歩き
3. 情報交換

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年3回程度の街歩きを行なっています。参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。
入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



《 編集後記 》

- オミクロンの感染拡大が続いています。茨木市での感染者も増加していることから2月3日(木)の例会は中止としました。3回目のワクチン効果に期待したいです。
- 街ing 次回の行事は4月5日(火)の仁和寺周辺でのお花見です。あと1か月余り。1～2ページに案内を掲載しています。コロナの完全終息は難しいでしょうが、引き続き対策を講じながら実施にこぎつけたいです。
- 街ing の街歩きは、午前中プラス食事、その食事もちょっと贅沢目。このパターンが好評のようです。試行錯誤をしながら長く続けていきたいです。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22
Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp
街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2022年2月現在での訪問者は9,540<前月比20の増加>となっています。

